

五月廿一日北陽演舞場

# 獨演會 滿員御禮

何分とも手不足の爲不行届勝の事と存じ候へ共何卒不惡御寛容被下度候

笑 福 亭 松 鶴  
樂 語 莊 後 援 會 幹 事



## 船 辨 慶

笑 福 亭 松 鶴  
三遊亭 しん藏書

どふやら夏らしふ成て参りました。時候に合せまして船のお話を一席申上ます。  
『内に居るか』

『いよウ。清やか、まア遣入つて。』  
『なんと暑いやないか。至で蒸されてる様な心持やがナ。又此暑いのに、何と宜ふ精出してゐるやないか』

『別に精出してるちウ譯やないねが、静止としてゝも此様に汗がタラ〜流れよる。手でも動かしてたら氣なと紛れるやう思ふて、ボチ〜遣てんね。』  
『豪い。其處へ氣が附くのは感心や。そらそうや。手を動かしてさえ居りや氣が紛れて錢が儲かる。おゝ、そら然ふと甚ふ内が閑散りしてるナ。小指は留守か。』